

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100951		
法人名	医療法人 かわせみ		
事業所名	グループホーム ハタ		
所在地	徳島県徳島市八多町小倉76番地		
自己評価作成日	平成21年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者には家庭的な雰囲気の中で、穏やかに過ごしていただいている。ホームの周りは桜や紅葉などの自然環境に恵まれ、天気が良い日には遊歩道を散歩している。また野山の散歩も楽しんでいる。利用者全員に終末期に向けた対応の準備を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の高齢化や重度化によりケア面での困難さがみられている。カンファレンスには母体の医療機関から医師や薬剤師、看護師、精神保健福祉士が毎回出席し、率直な意見を出し合ってお互いの役割を理解・尊重しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。2ユニット分の設備の内、1ユニットのみを運営し、空いたスペースをカラオケやビデオ鑑賞が個人でもグループでも気兼ねなく楽しめるよう有効に活用している。職員は、利用者が日々の生活の中で尊厳ある生き方が具現化できるよう柔軟に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掘り下げて全職員で話し合い、ミーティング等で具体的なケアについて意見の統一を図っている。	運営方針並びに地域社会における事業所の役割を明示した理念を、全職員で話し合い、作成している。職員は常に意識しながら日常の業務に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りの時にお神輿に来てもらったり、地域の敬老会に参加している。月1～2回併設病院で行われる行事に参加し、交流を図っている。	日々の散歩を通じて顔見知りの関係になったり、併設する母体医療機関と共に交流したりしている。町内の秋祭りや敬老行事などに参加している。事業所の実績等を地域に向けて活かせず取り組みが十分ではない。	定期的に発行している「ホーム便り」の配布方法を検討し、事業所の実績等の広報を強化し、地域との交流がさらに充実できることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元住民に事業所に寄ってもらえるよう声をかけたり、公民館と共に協働できることを検討したりするなど、地域の人々に向けた働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、経過を報告するようにしている。	運営推進会議では、食中毒や認知症ケアに関する研修を実施したり、アンケート調査や防災訓練などの実施に関する意見交換を行ったりしている。話し合われた内容はサービスの質の向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム便りを届け、利用者の暮らしぶりを伝えるようにしている。	ホーム便りを市の担当者に手渡し、実情を説明したり運営に関する相談を行ったりして行政との連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束の講習会に参加し、事業所内でも勉強会を実施している。	日中は、玄関を施錠しないケアに取り組んでいる。職員は見守りを重視し、利用者が外出しそうな様子を察知した場合にはさりげなく声をかけるなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加し、事業所内でも勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会等が主催する成年後見制度の研修に参加している。成年後見人が必要な場合、管理者が一人で対応するため、全職員が必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定や、制度改正等により利用料が増加する場合等、一方的な通達にならないよう個別の相談に応じながら詳しく説明するよう心かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時等、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	多数の家族が参加する運営推進会議で検討し、利用者に対するアンケートや聞き取りなどで意見や要望を聞いている。把握した内容は運営推進会議などで報告し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見を聞くよう心がけているが、不満や苦情は言い難いこともあり、把握しきれない状況もある。	管理者と職員は日常的に話し合い、できることから実践につなげている。また、管理者は月1回行われる法人管理会議でも報告し、職員の意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会等には、なるべく多くの職員が参加できるよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国組織のグループホーム協会に加入し、必要な研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気づくりを心がけ、本人の状態や思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を確認し、改善にむけた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、和やかな生活が出来るよう努めている。できることを一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や、気づきを伝えることで家族との情報の共有に努め、家族と同じような気持ちで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している整骨院から来てもらったり、以前にお参りしていたお寺やお観音様に連絡し、拜んでもらったりしている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	入居前から利用しているマッサージ師の定期訪問や菩提寺の住職との連絡を取り持つなど、継続的な関わりが保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分、感情で変化するため注意深く見守るようにしている。また個別に話を聞いたり、気の合う方同士で過ごせるよう、利用者同士の関係がうまくいくよう、調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待するなど継続的な付き合いができるよう心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を押し量ったり、それとなく確認するようにしている。	職員は利用者の日常的な行動や表情等から、思いや意向を読み取る努力をしている。また、利用者一人ひとりの思いを大事にしながら、カンファレンス等で話し合い、サービスに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人及び家族から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来ないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	毎月15日と月末に計画の評価を実施している。また、医師や薬剤師、看護師などの意見も聞き、利用者の状態に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉などを個々のケア記録に記載し、全員で確認できるようにしている。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する専門医に受診できるように支援し、かかりつけ医などと連携を図っている。	併設医療機関での受診のほか、利用者の希望に応じたかかりつけ医への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。毎朝のバイタル測定等で変化に気づいたことがあれば、ただちに看護職に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また家族と情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人や家族等と重度化した場合や終末期に向けた対応を話し合い、支援方針の同意書にサインをもらっている。	利用者の高齢化に伴い、重度化した場合や終末期に向けた家族との話し合いを行っている。しかし、関係者間における具体的な対応指針や支援方法等の共有が十分ではない。	重度化した場合や終末期の対応は、医療機関とも相談しながら指針づくりや説明と同意の方法などを確立できるように取り組まれない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や話し合いを繰り返し行っている。マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設病院と一緒に消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている。グループホーム独自で通報訓練・利用者と一緒に火災や地震時の避難訓練を行っている。	年に2回、併設病院と合同で行う防災訓練に加えて、事業所独自で通報や避難、消火訓練を2か月ごとに実施している。しかし、地域住民との協力体制づくりは行われていない。	災害時には、事業所のみではなく、近隣住民からの協力も得られるような体制が構築されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要なときも、まず本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	利用者の居室へ入室する際には、必ずノックを行い、声をかけてから入るように徹底している。また利用者の誇りやプライバシーを損ねる対応をしないような言動に配慮し、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決めたことを押し付けるようなことはせず、状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすいように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応も心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援をしている、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒にご飯を炊いたり、併設病院で作られるおかずの盛り付けや配膳などを行っている。また利用者と職員は同じ食卓を囲み、和やかに食事をしている	食事の準備や盛り付け、後片づけは利用者と一緒にやっている。また食事の際は、職員も同じ食事を食べながら、会話したり、さりげない介助を行ったりしながら楽しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し記録している。水分摂取はお茶の時間を設けるなど利用者の好みに合わせて飲めるようにしている。食事は管理栄養士がつくる併設病院と同じ献立のおかずを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面所に行ってもらっている。自分でできる方は声かけ、見守りをし、出来ない方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、トイレで排泄できるよう支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パッドも本人に合わせて検討している。	パット交換や失禁時の対応などは、周囲に配慮した言葉かけにより自室へ誘導している。また何気ない言葉や行動などから尿意・便意の察知に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操、リハビリ体操、水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴時間を決めたり順番を決めている。また仲のよい利用者同士の入浴希望にも対応している。	入浴は利用者の希望によって午前中に行うことが多くなっている。また利用者の希望や必要性に応じて随時の入浴にも対応するなど、一人ひとりの状況に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。夕食後から就寝までの時間はゲームをしたり、一緒にテレビを見ながら温かいお茶を飲んだりして気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を記録し、職員が把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡しや介助を行い、きちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。外出や地域の行事参加等の楽しみごとは、利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先の草花の手入れや近隣への散歩など、毎日外出できる機会をつくっている。またお花見や裏山の遊歩道へ出かけたり、外食や買い物、喫茶などの外出支援を行っている。	散歩を日課とし、気候や利用者の状態に合わせて戸外に出かけられるよう支援している。また希望に応じて、買い物や外出などの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持ってもらっている方もいる。お金を預かり、事業所が管理している方でも、外食費や買い物のお金を自分で払っていただけるよう、お金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出すための支援を欠かさず行き、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共用スペースにソファや長椅子を置き、一人でゆっくりくつろいだり、気の合う利用者同士で話が出来るよう工夫している。また洗面所や玄関には季節の花を飾っている。	玄関先やアプローチには季節の花を飾り、室内には一人ひとりが思い思いに過ごすことができるソファや長椅子を設置している。また個人や気の合う仲間同士でカラオケやビデオ鑑賞が気兼ねなく楽しめる場も用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で一人用の椅子やソファを準備し、くつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家具、写真や手作りカレンダーなどが持ち込まれ、居心地のよい居室作りがされている。	居室には使い慣れた物や愛用品を持ち込めるようにしている。居心地よく、不自由なく利用できるよう本人や家族の希望にそった居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、状況に合わせて環境整備に努めている。毎月利用者の状態確認を行い、変化が生じている場合は職員間で話し合い、本人の不安を取り除くように努めている。		